幼稚園児の着装の類型化と母親の意識構造

熊谷　伸子*　　芳住　邦雄*　　児玉　好信**　　荻村　昭典***

Classification of Kindergarteners' Images Based on their Wear and the Evaluation by the Mother's Generation Using Hayashi's Third Quantification Method

Shinko Kumagai　　Kunio Yoshizumi　　Yoshinobu Kodama　　Akinori Ogimura

Abstract

Representative images of kindergarteners were compiled into four kinds of patterns after total of 1469 ones were observed in front of a certain private kindergarten in Tokyo in May and June of 1995. Three patterns of them were used as stimuli to 351 kindergarteners' mothers in the application of Hayashi's third quantification method. Affirmative or negative responses were obtained with respect to 23 feeling expressions which correspond to categories in the method. As a result, present kindergarteners' images were analyzed to be expressed by two kinds of independent factors under the condition of 23 categories. One is a personal intention in public or formal clothing. The other is a progressive or conservative attitude toward clothing fashion. The evalution of each clothing pattern by the method coincided closely with the interpretation by authors' impression of it. Therefore, it is concluded that the selected clothing patterns in this study may represent the present status of kindergarteners.

（キーワード　kindergartener：幼稚園児，Hayashi's third quantification method：数量化3類，clothing pattern：着装パターン，progressive-conservative：進歩的－保守的，public-private：公的－私的）

1. はじめに

日本の15歳未満の子どもの数は1996年4月1日現在1987万人で，1920年に実施された第1回国勢調査以来初めて2000万人を下回ったことが，総務庁の「わが国の子供の数」調査により明らかになった[1)]。同時に，総人口に占める子どもの割合は1979年以来下がり続け，ついには過去最低の15.8%を記録した[2)]。これは，出生率の低下によりもたらされる少子化がより一層進行していることの現れである。少子化社会において，実際に育児にかかわっている親がどのような意識を持って子どもを捉えているかを検討することは，家族のあり方を考える上での重要課題である。とりわけ，母子一体などと言われるように子どもと密接な関係を持つ母親との関わりは緊急に解明すべき問題点である。

親子の関係においていくつかの観察を行った結果，レデラー（Lederer）は，母親とは我が子が存在するという理由だけで我が子を愛するという絶対的な愛情を持つ[3)]，と述べている。また，パーソンズはどのような集団も「道具的（instrumental）役割」と「表出的（expressive）役割」という2つの機能を分化させているという一般原理を提示した上で，核家族において父親は道具的役割を，母親は表出的役割を果たしているとして述べているが，その中で母親につ

*共立女子大学大学院家政学研究科
**共立女子短期大学生活科学科
***文化女子大学家政学部

いて子どもの直接的な養護に携わる者である[4]としても述べている。シングルマザーや通い婚（コミューターマリッジ）など様々な家族形態が出現している現状をみると，多様性を有する家族における母親とその子どもとの関係を検討することは，家族関係における不可欠な要素と言える。

本研究では，ブレイク（Mike Brake）が，独自の文化を象徴するものとして服装などの外見からのイメージを挙げている[5]ことに留意して，特に服装を通して母親と子どもの関係を捉えることに視点を置いて検討する。すなわち，行動意識の現出としてコミュニケーション機能を果たすという重要な役割を持つ着装行動[6]から，少子化社会という現代における母親と子どもの関係を明らかにしようとするものである。

従って，本研究では多次元的に物事をとらえることができ，それぞれの関係を空間上に位置付けて相対的に現象をとらえることが可能な数量化3類の特徴に着眼して分析に用いた。時代の流れと共に変化しつつある家族の中の母子関係に視点を定め，現代の母親からみた子どものイメージを数量化3類により，構造的に明らかにすることを本研究は目的としている。従来の報告では，子どもの着装イメージに着目した研究成果は見当たらない。

2. 研 究 方 法

(1) 着装パターンの観察

東京都内の私立A幼稚園に通う4から6歳の園児延べ1469人を調査対象として，その着装行動からみてそれぞれが帰属するグループの意識を表出していると思われる着装パターンを摘出した。すなわち，幼稚園に通園する園児の服装を上衣と下衣に分け，1994年の5月から6月の延べ10日間にわたり行動目録法[7]に準じて観察し，代表的着装としての集約を試みた。こうした検討により，幼稚園児の着装のイメージを分類した。尚，男児より女児の方が被服に興味を持っている[8]ことや，男児に比べ女児は着装の変化幅が広かったため，今回は女児のみを調査対象とした。

(2) 着装の数量化3類による構造化

数量化3類の適用では，ある1つの着装パターンを刺激として提示するごとに被験者の評価を求めた。被験者として東京，埼玉，千葉の私立幼稚園に実際に通園する園児を有する母親（サンプル）351人に調査を依頼し，23個の言葉で示された項目（カテゴリー）への肯定あるいは否定の回答を得て，この刺激へのカテゴリー反応として集積した。尚，東京と埼玉の幼稚園は大学付属の中規模の幼稚園であるために，郊外からも通園して来る者が見られた。一方，千葉の幼稚園も私立ではあるのだが，ここは公立幼稚園のような地元密着型の大規模な幼稚園であった。

また，刺激として与えられた各着装パターンの構造上の違いを明確にするためにボンドサンプルの手法を採用した。すなわち，カテゴリーは同一で各刺激ごとに反応するサンプルのほうが異なっていると考え，各着装パターンごとのデーターを結合して，ひとつひとつの集団のデーターであると見なして構造を解析した。

尚，本研究に用いた23語のカテゴリーは，従来の文献から摘出した104語に対して予備実験的な構造化を行い摘出されたものである。

3. 結果および考察

(1) 着装パターンの選定

幼稚園に通園してくる女児の服装を，上衣，下衣，靴下，靴，持ち物その他の概況に着眼して，その特徴を把握した。すなわち，デザイン，洋服の材質あるいはスカート丈，価格といった様々な観点から総合的に個々の着装の特性を把握し，**図1～4**に示した4種類の着装パターンとして，以下に述べる著者らの印象に基づき集約した。

図1に示した子どもは，人数比が8.7%であった。母親とお揃いのスパッツとTシャツを着用しているペアさえ見受けられることも少なく

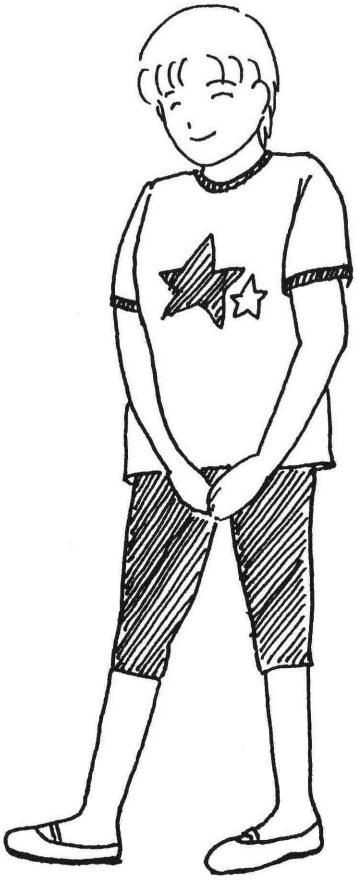

図1　幼稚園女児のイメージ・パターン1

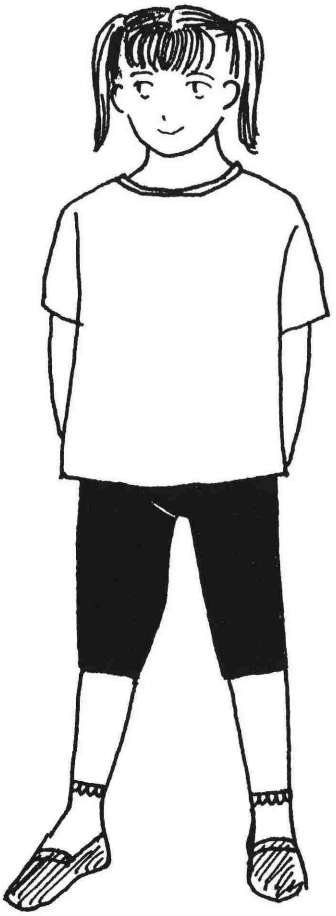

図2　幼稚園女児のイメージ・パターン2

なかった。これは母親と子どもは友達の様に仲良しな関係[9]，あるいは，母親にとって子どもは分身，つまりもう一人の自分自身として感じられることが表出していると言える。高山の言う共感コミュニケーションの現れ[10]とも考えられる。具体的な服装としては，ブランドのロゴが入っていたりする色とりどりのTシャツに，多少柄のあるスパッツを着用[11]していた。上下でコーディネイト[12]がなされ，また女子高生の間で人気のあるルーズソックス[13]をはいている子どももいて，大人顔負けの流行追従タイプと言える。

図2のタイプは，外見的には**図1**に非常に類似しているものの，ブランドのロゴ等は見られず，また洗い晒しという印象を受けた。つまり，**図1**よりも高級感の少ないより庶民的な感じを受けるのが**図2**である。全体に対する比率は12.7%であった。全体的にスポーティーな着装であるのだが，フリルの付いた靴下をはくなど，ややちぐはぐな印象を受けた。**図1**および**図2**は共にスパッツを着用しているが，これは流行のスタイルであると同時に大変活動的であり子どもに適しているため[11]だと思われる。

以上の2つに比べるとよりフォーマルな印象を受けるのが，**図3**である。人数比は21.5%である。ワンピースの着用を中心としたお嬢様タイプである。高級なものばかりだとは言い難いが，デザインや柄等に凝ったものが多くまさに母親にとっての大事なお人形[14]といったところである。また，このタイプはスカート丈によ

図3　幼稚園女児のイメージ・パターン3

図4　幼稚園女児のイメージ・パターン4

り大分異なった印象を受けるという特徴がある。丈が長めの方がやや高級な感じを受け[14]，短い方が活動的な印象を受ける[15]。このタイプが多いのはどの母親にとっても子供は共通した自分のかわいい所有物であり，着飾らせたい，かわいくあらせたいという愛情意識の現れと思われる。尚，この類の着装は清水の研究によっても明らかなように女性のみに用いられる1部式衣服[16]という基本的な形態である為，その着用者が多いものと思われる。

最も割合が多く人数比で57.1%を占めたのが，**図4**のタイプである。具体的には上下別々のものを着用しているタイプである。子どもは遊んだりして汚すのでこのように上下別々のものが実用的で良い[17]のかもしれない。また，子どものウエストにくびれがないという体型の特徴上，肩で着るサスペンダーのタイプが多かった。やはり，昔ながらの子どもらしい最も活動的な服装であるために支持者が多いものと思われる。

このように4タイプに分類したわけであるが，その内の3タイプ（**図1，2，4**）が上下の組み合わせという2部式衣服だったのは，汚した時の着替えの面や，組み合わせの種類の多さ，と同時に肩と腰に重量を分割しているので大変適応性，機能性に富み合理的な衣服形態[18]であるためだと思われる。

(2)　カテゴリーの構造化

現代の子どものイメージを服装を通して明らかにするために，本研究が目指したのは，一つ

一つの質問への反応傾向について論じると言うよりも，構成された質問群であるカテゴリー群に対してどのような反応の仕方をしているか，ということを検討することにある。従って，**図1**と**2**の子どものイメージの細かな違いには今回はあえて着目せず，スパッツを共通とする一つのイメージとしてその特徴がより表出していると思われる**図1**のみを刺激として用いた。従って，刺激として用いたのは**図1**，**3**および**4**の3種類である。

本研究では，23語のカテゴリーに対する351サンプル（351名×3パターン）の解析を数量化3類によって行った結果，23語による2次元の構造が見出された。すなわち，第3因子まで算出したのだが，固有値の値および因子の解釈の明確さから，第2因子まで使用することが適当であると判断した。固有値は，**表1**に示す通り第1因子が0.375，第2因子は0.162であった。一方，構造化に用いるカテゴリーは肯定回答の頻度が30%から70%程度の間にあるものが適当であると考えられている。頻度に大きな

表1　数量化3類による分析に用いたカテゴリーとカテゴリースコア

カテゴリー	肯定支持率	カテゴリースコア 第一因子	第二因子
1 華やいだ	(17.5%)	0.93161	0.56482
2 くつろいだ	(67.5%)	-0.56441	-0.08886
3 実用的な	(79.3%)	-0.42974	-0.18872
4 平凡な	(74.0%)	-0.23543	-0.37997
5 おとなしい	(52.0%)	0.13242	-0.50518
6 自信に満ちた	(18.1%)	-0.07187	0.60199
7 知的な	(24.2%)	0.74825	0.00002
8 フォーマルな	(18.7%)	1.12476	0.21336
9 のんびりした	(52.8%)	-0.49737	-0.16367
10 個性的な	(21.7%)	-0.55181	0.84929
11 新しい	(16.4%)	-0.61647	0.97418
12 節約的な	(43.1%)	-0.56640	-0.13961
13 公的な	(25.8%)	0.78664	-0.16123
14 ロマンチックな	(19.7%)	0.90076	0.11992
15 無難な	(71.8%)	-0.08470	-0.32706
16 清楚な	(50.7%)	0.33812	0.35189
17 私的な	(48.4%)	-0.42627	0.01190
18 カジュアルな	(68.1%)	-0.55046	-0.13064
19 アットホームな	(64.7%)	-0.54184	-0.12106
20 軽快な	(69.9%)	-0.54184	-0.09679
21 ヘルシーな	(48.8%)	0.54380	-0.72629
22 あらたまった	(20.7%)	1.11107	0.03754
23 地味な	(18.6%)	0.08788	-0.72629
	固有値	0.37505	0.16209

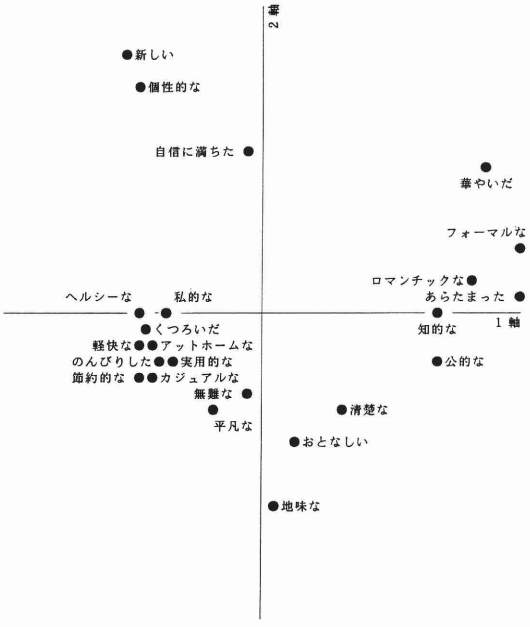

図5　23語のカテゴリーによる構造図

偏りがあるものは適当であるとは言えず，特に頻度の低いカテゴリーを含めて構造化すると，そのカテゴリーが特異な位置づけとなって，構造を歪めてしまう[19]と言われている。本研究では**表1**に示したように肯定回答の比率は16.4%から79.3%であり，上述の議論からほぼ妥当な範囲にあると言える。

図5は，第1因子を横軸，第2因子を縦軸にとった座標平面に，23カテゴリーを布置した構造図である。第1軸では正の方向に，

- あらたまった
- フォーマルな
- ロマンチックな
- 知的な
- 公的な

といったカテゴリーが布置し，負の方向には，

- ヘルシーな
- くつろいだ
- 軽快な
- 節約的な
- カジュアルな

といったカテゴリーが布置した。第1軸の正の

方向と負の方向にそれぞれ集まっているカテゴリーがこの軸の特徴を顕著に表しているわけであるが，これらの概念をとりまとめると，正の方向は外に対する態度ないし公的志向を表すものと見られる。また，負の方向は内に対する節約等の私的志向を示していると言えそうである。

次に第2軸では，正の方向に

- 新しい
- 個性的な
- 自信に満ちた

といったカテゴリーが布置し，負の方向には，

- 地味な
- おとなしい
- 平凡な

といったカテゴリーが布置した。第1軸と同様にして軸の解釈を行うと，第2軸の正の方向の概念としては自己の存在を目立たせるという自己革新的態度を表すものと言えそうである。一方，負の方向の概念としては地味に自分を抑えるという保守的態度が見られる。

以上をとりまとめると，母親の目を通しての幼稚園女児の着装からうかがえる現代の子どものイメージは次の通りである。すなわち，着装から見ると2種類の要因によって代表され，平面表示によれば1軸は内外に対する個人の態度を表す軸であり，それに対して2軸は革新的ないしは保守的という個人の意向を意味付けるものであるとして解釈できると結論される。

(3) パターンごとの個人分布

数量化3類では，カテゴリーごとのスコアが求められると共に，各被験者であるサンプルごとのスコア分布が得られることが特徴の1つとして挙げられる。この個人スコア分布の検討は，ボンドサンプルの手法においては各刺激の相対的位置を評価するのに有効な手段である[20]。**図6〜8**にはサンプル分布と呼ばれる個人スコアの散布図を示した。これらはそれぞれ**図1，3**および**4**に示した着装パターンと対応しており，横軸および縦軸の有する概念は**図5**で論じた意義と同一である。従って，**図6〜8**のスコア分布は，各着装パターンの特徴を被験者351人によって総合的に判断した結果であると考えられる。尚，図上の数字は二次元マトリックスに該当するスコアとなった人数を示している。ここでは，1〜2人は省略し3人以上についてのみ

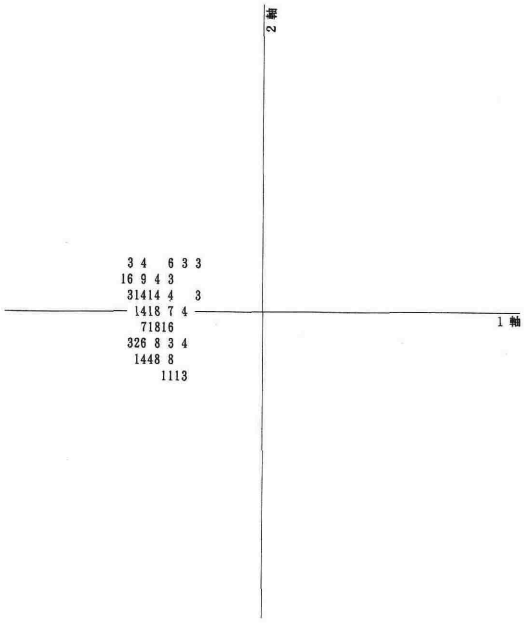

図6　パターン1にかかわる個人スコアの分布

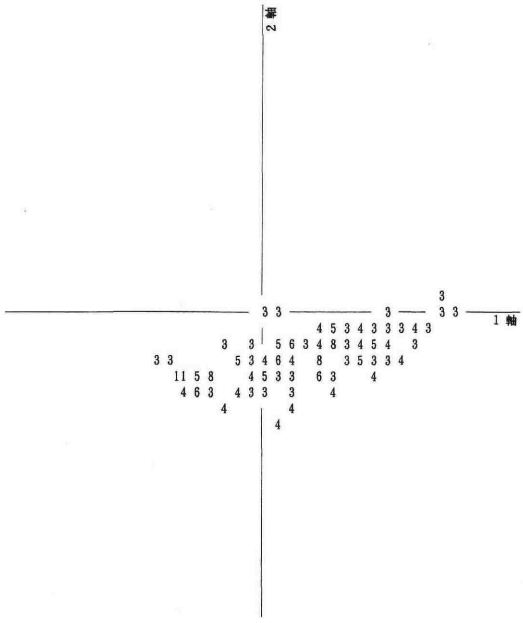

図7　パターン3にかかわる個人スコアの分布

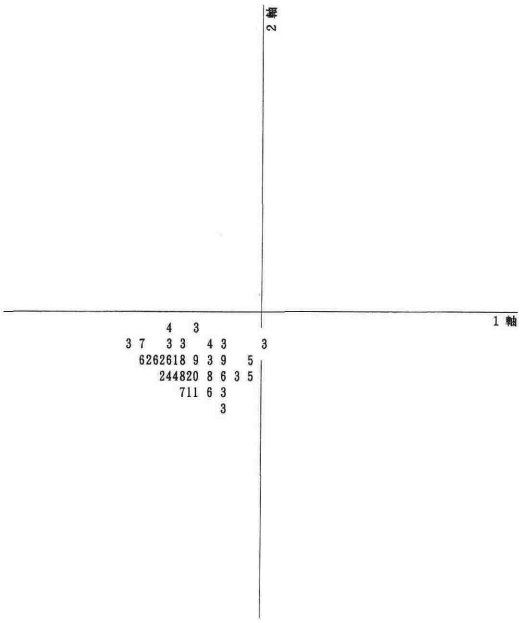

図8　パターン4にかかわる個人スコアの分布

表示した。また，全体の平均が零となる規準化は行っていない。

図1のイメージに対する評価である個人分布を示した**図6**は，1軸のマイナス側，つまり生活を思い浮かばせる私的志向の評価を強調して分布している。また，2軸では原点よりに集中して分布している。これは個人的意向の軸の中程に位置しているということであり，母親たちの好みとしては保守的でも革新的でもないという結果を表していることになる。従って，大人が着用するとなれば体型が全て現れてしまうことから，勇気を有するやや革新的な衣服としてスパッツが扱われる傾向があるが，活動的な子どもにとっては良い活動着であり普通のものとして扱われているようである。これらのことは観察による結果と一致している。

図3のイメージに対する**図7**は，1軸のプラス側から少しマイナス側へ2軸をまたいで分布している。つまり，フォーマル性等を表す外に対する公的態度に大きくは引かれているのだが，くつろぎや節約といった私的態度にも引かれている。一方，2軸から見ると，原点付近のマイナス側に分布している。つまり保守的態度に引かれているのである。ワンピースは昔からあるものであり，上衣や下衣というように分かれない1部式衣服であるので，その形自身もブラウス等のように変化を受けにくい。このような概況から考えても，保守的態度に引かれているこの結果は妥当なものであると考えられる。

図4のイメージに対する**図8**は，1軸のマイナス側および2軸のマイナス側に集中的に分布している。1軸の私的志向と2軸の保守的態度に引かれているということは，つまり3つのタイプの中で最も日常生活に近いものであると言えそうである。上下別々なので子ども達が服を汚してもすぐに着替えられる，また組み合わせにより着装の幅が広がるなど生活に密着したイメージを持っている。このような観点からも，この分布は的確な判断を下しているものと言いうる。

以上のことをとりまとめると，著者らの印象に基づき選定した着装パターンであるが，個人スコアによる着装パターン別の特徴は，前述の著者らの解釈とほぼ一致することが判明したと言える。従って，本研究で摘出した子どものイメージは，子ども達の現況を示しうる分類による代表的な着装であると結論される。

4. 総　　括

本研究では，行動意識の現出としてコミュニケーション機能を果たすという重要な役割を持つ着装行動から，少子化社会という現代における母親と子どもの関係を明らかにすることを目的とした。従って，多次元的に物事をとらえることができ，それぞれの関係を空間上に位置付けて相対的に現象をとらえることが可能な数量化3類を用いて，現代の子どものイメージを構造的に捉えることを試みた。

東京都内の私立A幼稚園に通う園児延べ1469人を調査対象として，その着装行動からみてそれぞれが帰属するグループの意識を表出していると思われる女児の着装パターンを4種

類に集約して摘出した。これらの内の3つを刺激として351人の実際に幼稚園児を持つ母親に提示し，カテゴリーに相当する23語について評価を得た。

その結果，母親からみた現代の子どものイメージは，着装から見ると23語のカテゴリーで構成される2種類の要因によって代表されることが明らかになった。すなわち，第1因子は内と外という私的および公的志向つまり個人の態度を表す因子であり，一方第2因子は革新および保守的態度という個人の意向を表す因子であると解釈された。

謝　　辞

本研究にあたり共立女子大学家政学部木暮桂子氏の協力を得た。深甚なる謝意を表す。

参 考 文 献

1) 総務庁，我が国の子供の数，平成8年5月4日
2) 読売新聞，1996年5月5日
3) W. Lederer, Dragons, delinquents and destiny, Psychol. Issues, 4, whole No. 3, 1964
4) T. Parsons, R. F. Bales, 橋爪貞夫他訳，核家族と子供の社会化　上，黎明書房，東京，1970
5) M. Brake, The Sociology of Youth Culture and Youth Subcultures, Routledge and Kegan Paul Ltd, London, 1980, 6
6) 神山進，被服心理学，光生館，1987，19～20
7) 続有恒，苧阪良二編，心理学研究法10，東京大学出版会，1974，60～64
8) 川田千恵，高野倉睦子，長野智子，小林茂雄，服飾に対する幼児の自我の発達（その2）－幼児の自我に対する母親の認識－，日本家政学会第46回大会研究発表要旨集，1994，227
9) 石堂淑朗，親子の友達感覚が日本を滅ぼす，知識，103，1990. 6，150～156
10) 高山英男，子どものおしゃれ感覚をめぐる親子関係－新世代の母と子のファッション意識－，児童心理，45（6），1991. 5，774～779
11) マフィン6月号増刊おやこ'95夏号，小学館，1995，60
12) マフィン3月号増刊おやこ'95春号，小学館，1995，38～55
13) オリーブ7月3日号，マガジンハウス，1996，18～19
14) マフィン6月号増刊おやこ'95夏号，小学館，1995，92～93
15) マフィン6月号増刊おやこ'95夏号，小学館，1995，32
16) 清水泰代，園児の着用状況について（第1報）－通園服と家庭服の相違について－，四国女子大学四国女子短期大学研究紀要，14，1973，75
17) マフィン6月号増刊おやこ'95夏号，小学館，1995，43
18) 清水泰代，園児の着用状況について（第1報）－通園服と家庭服の相違について－，四国女子大学四国女子短期大学研究紀要，14，1973，72
19) 穐山貞登，いかにも・なるほど・まさかの社会心理学，川島書店，1990，63～64
20) 穐山貞登，児玉好信，多様化する人々の欲求，鹿島出版会，1982，26～42